

牟岐中学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①主体的に学習する生徒を育てるわかる授業の確立。
- ②体験活動や言語活動の充実。
- ③保小中の系統的な学習方法の確立。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 (研修主任) 中口 尚美	学校長 小泉 博 第1学年主任 中口 尚美 第2学年主任 久保 伸子 第3学年主任 田上 正史	教頭 榎並 正人 教務主任 坂田 博紀
----------------------------	--	------------------------

校長

小泉 博



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 授業態度は良好で、学習内容をノートに整理できている。朝自習の時間も集中して取り組んでいる。家庭学習調査では、学習時間が少しずつ増加しており、「ながら」学習をする生徒は減少している。	①意欲的に授業に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ②学習方法を身につけ、自主的に学習に取り組むことができる。	①授業中の板書や宿題・課題を提出する生徒の割合が90%以上。 ②家庭学習で予習・復習をする生徒が90%以上。	学習方法を身につけられるよう継続的に指導する。一人一人の学習状況や定着度を把握しながら指導方法を工夫する。	評価	次年度における改善事項
課 題 学力が二極化傾向にある。聞く力が弱い。家庭学習をしている生徒が65%にとどまっており、宿題をしていない生徒が14%いる。読書時間が少ない。	具体的方策(教員の取組) ①相互授業参観を学期に1回実施し、わかりやすい授業をめざした職員研修を行う。 ②ワークシート等の教材の工夫、ドリル学習や小テストを活用するなど授業改善や学習方法の工夫に努める。 ③保・小・中で「聞くこと」に重点を置いた取り組みを行う。	取組指標 ①わかりやすい授業が展開されていると思う生徒の割合が90%以上。 ②知識・技能において、A・B評価の生徒の割合が80%以上。			

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 「総合的な学習の時間」の授業を中心に、生徒が自分で調べたことや考えたことを発表したり、文章で表現する機会を多く設けた結果、他教科でも積極的に言語活動等に取り組む姿勢が見られるようになった。	①すべての授業を通して、自分の思いを正しく表現できる。 ②異年齢集団や地域の人との交流を通して、積極的に発言し、意見をまとめることができる。	①授業などで自分の考え方を他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思わない生徒が60%以上。 ②総合的な学習の時間や人権学習で学習のまとめや自分の意見を発表できる。	授業だけでなく、短学活等でも発言できる機会を設ける。また、発表者の発言をしっかりと聞くよう指導し、感想を述べるなどして表現する力を伸ばす。	評価	次年度における改善事項
課 題 「授業などで自分の考え方を他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」と思う生徒が40%いる。人間関係が固定化しがちなので、積極的に発言する生徒としない生徒が概ね決まっている。	具体的方策(教員の取組) ①地域の方と連携し、生徒主体の体験的な活動を通して、学んだことを発信し、表現する力を伸ばす。 ②すべての授業に言語活動を取り入れたり、学習形態の工夫やツールを利用したりする。	取組指標 ①生徒自身の考えを筋道を立てて発表する機会を1週間に1回以上。 ②総合学習で学んだことを他コースや地域の方に発表する機会を設ける。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 学習に前向きに取り組む姿勢がみられ、生活のきまりを守って学校生活を送ることができている。学年があがるにつれ、成功体験を生かした意欲的な生徒が増えてきている。	①学ぶ楽しさや喜びを感じて、自信をもって粘り強く学び続けることができる。 ②よりよい人間関係の中で安心して学校生活を送ることができる。	①「分からないときあきらめないで考える」や「疑問に思うことを自分で調べている」と答える生徒の割合が80%以上 ②学校が楽しいと答える生徒の割合が90%以上	学習意欲が低下している生徒に対し、学習する意義を問い直したり、家庭学習調査を活用して生活の見直しや学習への目標を再確認させる。	評価	次年度における改善事項
課 題 自ら課題を見つけていくなど探求心を持って取り組もうとする意欲にも二極化傾向がみられる。学校が楽しいと答えた生徒の割合が85%、目標を持って学校生活を送っていると答えた生徒が73%にとどまっている。	具体的方策(教員の取組) ①異年齢集団や地域の方と交流し、主体的な活動や、意欲を高めたり、成功体験を味わうことができる活動を取り入れる。 ②情報交換を密にし、生徒理解を深めて、個に応じた指導を行う。	取組指標 ①小中連携オープンクラスを年3回以上、市宇ヶ丘研修会を年3回以上 ②家庭学習調査票やアンケートなどで振り返り、改善する機会を各学期2回以上。 ③小・中や学年間での情報交換を行う。			

平成31年度 学力向上ロードマップ



